

通し番号	4448
------	------

分類番号	21-24-12-07
------	-------------

(成果情報名) 低段・多段組合せ栽培によるトマト周年安定多収栽培体系の実証
[要約] 積算温度を用いたトマトの生長解析による作型組み合わせ手法に基づいて低段密植栽培と長期多段どり栽培を組み合わせた、トマトの養液栽培体系は、周年収穫と10a当たり年間40～50 tの安定多収が達成できる。
(実施機関・部名) 神奈川県農業技術センター・野菜作物研究部 連絡先0463-58-0333

[背景・ねらい]

施設トマト経営の持続的発展にむけて、収量の周年安定多収技術が望まれている。積算温度を用いた生長解析による施設トマトの作型組み合わせ体系構築手法を用いて、トマト養液栽培の周年安定多収栽培モデル体系を組み立て、実証試験をおこなって、10a当たりの年間収量50tを目指す。

[成果の内容・特徴]

- 1 積算温度を用いた生長解析による作型組み合わせ体系構築手法を用いて、低段密植栽培と長期多段どり栽培を最適に組み合わせた、トマト養液栽培の低段・多段組合せ周年安定多収栽培体系は、栽培期間・収穫期間とも、ほぼ計画通り周年継続させることができる(図1)。
- 2 月ごとの収量は、実績では0.4～5.9t/10a/月の変動を示すが、各作付の作型に最適な品種を採用することで、変動幅は計画の0.9～4.9t/10a/月に抑えられる(図1)。
- 3 年間収量は、実証試験の6月～5月の1年で見た場合、計画収量が44t/10a/年、実績収量が42t/10a/年(計画対比96%)であり、目標の50t/10a/年に対し80%以上を安定して確保できる(表1)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 実用にあたっては、低段密植栽培と長期多段どり栽培の組み合わせパターンは、個々の施設の年間気温推移を元にして再計算し、経営内容に最適化した体系を組み立てること。
- 2 各作付には、その作型に適した品種を選択する。

[具体的データ]

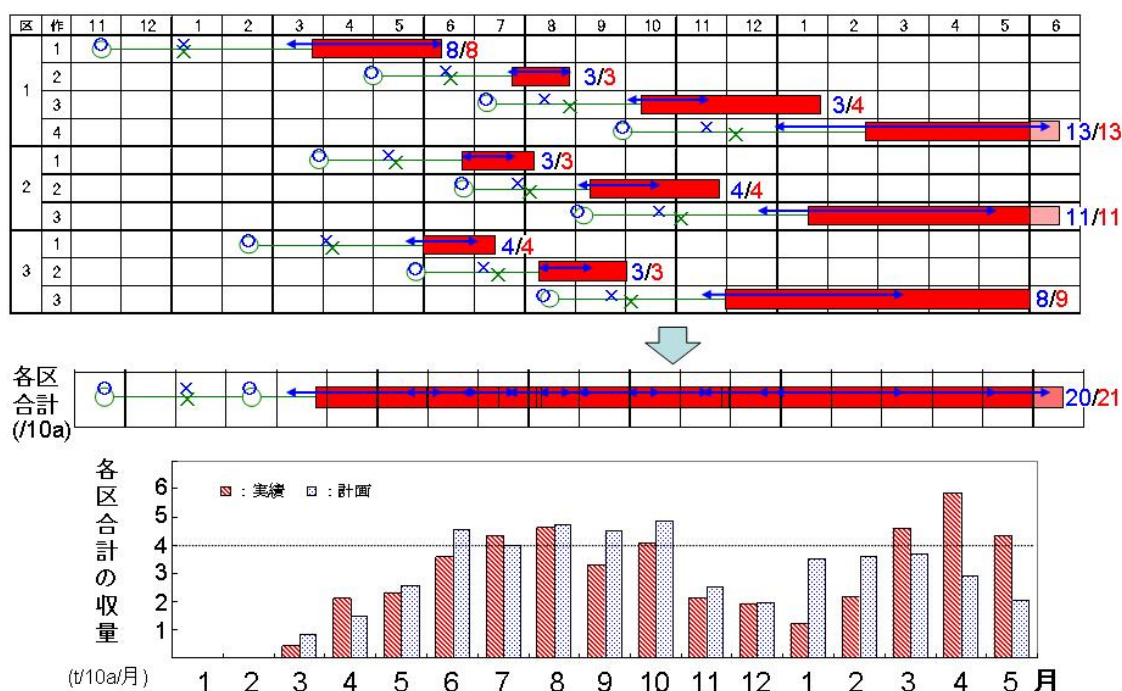


図1 作付けスケジュールと収量変化の計画と実績

○:播種 ×:定植 ■, ←:収穫期間 8/8:計画段数/実績段数

表1 低段・多段組合せ栽培最適作付組合せモデル体系に基づいた計画と実績、各区各作付の合計値

区	総収穫 段数 実績	総収量 (t/10a)		
		計画	実績	比
体系通算収量 (開始～5/31)	19.3	48.2	50.0	104
体系年収量 (6/1～5/31)	18.3	44.0	42.2	96

体系通算収量は、当所のモデル作付け体系の開始から終了まで完了させた時の通算収量値で、体系年収量はこのうち2009年6月1日～2010年5月31日の1年間の収量値。

[資料名]平成20・21年度試験研究成績書(野菜)、低段・多段組合せ栽培によるトマトの周年多収生産技術マニュアル(平成20年度～21年度研究成果実用化促進事業成果資料)

[研究課題名]低段多段組合せ栽培によるトマト安定多収栽培体系の開発と実証

[研究期間]平成20年～21年度

[研究担当者]廣瀬一郎・北宜裕・北浦健生・保谷明江

※本研究は農林水産省研究成果実用化促進事業により実施した。